

友の会通信

帰化植物がたくさん見つかるわけ

学芸員 木場英久

日本新産の帰化植物が神奈川県でみつかることがよくあります。1997年から1999年の3年間に何種が報告されたのか数えてみたら、日本新産が22種、本州新産が8種、合計で30種もありました。ほぼ毎月1種のペースでみつかったのです。他県に比べてダントツに多いと思います。そのたびに海外の文献を読んだり、ときには外国の標本を多く収蔵している国立科学博物館や東京大学などに持って行って実物と比べて名前を調べます。これほどたくさんの帰化植物が神奈川県でみつかるのは、別に神奈川県が特別だらしくなくて、帰化植物が入りやすいというわけではないでしょう。横浜港から外国の貨物がたくさん入ってきたり、宅地造成が盛んに行われてきたりという神奈川県に特徴的な要因はありますが、こんなに多くの帰化植物が神奈川県から報告されるのには、もっとほかに重要な理由があると思います。そんなことを痛感させたエピソードを紹介しようと思います。

昨年の夏に刊行された神奈川県植物誌調査会編『神奈川県植物誌 2001』では、古川冷實氏と佐藤恭子氏と勝山学芸員と私の4人がイネ科を担当しました。刊行直後の脱力感に包まれていた8月のある日、古川さんから電子メールが届きました。植物誌調査会のある方が大山の麓で採集したイネ科植物を調べたら *Uniola latifolia* Michx. という日本にない種で、生育場所からして園芸植物らしいとのこと。私は今まで見たことがありませんでしたが、学名のウニオラという音の響きが瀬能学芸員の十八番のひとつ「冬のリヴィエラ」を連想させたので「夏のウニオラ」なんて冗談で呼んでいました。

そんなことがあったことも忘れかけていた9月、とある方から花屋で売っていたイネ科植物の名前を教えて欲しいと押し葉が送られてきまし

た。調べていたら、どうやら *Uniola* に行き着くようです。「もしや、これが夏のウニオラか……」と思い、*U. latifolia* の記述を見るとぴったり合いました。

さらに1ヶ月後の10月、佐藤恭子さんから電子メールが来ました。どなたかが大山の山麓のトイレの横の植えマスの中にあった園芸植物らしいイネ科を採集されて、*U. latifolia* らしいという内容で、詳しい形態の詳細な記述と画像ファイルを送って来られました。もっと早く *Uniola* の情報を佐藤さんに伝えておけばよかったと思いました。きっと彼女も苦勞してこの種名にたどり着いたのでしょう。

つまり、2ヶ月という短期間で、3人のイネ科担当がそれぞれに同じ種を同定していたわけですが、それぞれの人のところにウニオラを持ってきた方はそれぞれ別の方でした。これだけ幾重にも監視の目があると、どんな帰化植物も遅かれ早かれ、みつかってしまいますね(ウニオラは、まだ帰化植物とは言えませんが……)。たくさんの帰化植物が神奈川から報告される重要な理由は、「熱心に身近な植物に目を向けている人が多いこと」だと再認識したできごとでした。



北米原産。小穂は長さ約3cm、幅約1.5cmで、12～13個の小花からなり、極めて扁平です。ドライフラワーにも使われます。*Uniola* 属は細分され、現在ではこの種の学名は *Chasmanthium latifolium* (Michx.) H.O.Yates です。

取材スタッフの直撃コーナー⑤ “自然を楽しむ みち”

“自然を楽しむ みち” 案内板の贈呈式に参加して！

7月21日（日）、博物館の近くにある石垣山（一夜城）で「自然を楽しむ みち」案内板の贈呈式があると聞いて、さっそく取材スタッフが猛暑？の中、行ってきました。

案内板は博物館周辺の身近な豊かな自然を沢山のの人に知ってもらうために、小田原ロータリークラブ（小林由明会長）が生命の星・地球博物館の協力を得て作成、設置し、小田原市に寄贈しました。

贈呈式には小澤小田原市長をはじめ、行政の担当者、博物館の職員の皆さんや地域の代表の皆さん、取材陣など大勢の方が出席されていました。青木館長も「博物館と地域との協調事業として素晴らしい案内板が出来たので、博物館を訪れるお客様が増えることを願っています」と祝辞を述べられました。

友の会の自然倶楽部や博物館の身近な自然観察会などで、一夜城へたずねることも有りますが、博物館の周辺は本当に自然が豊かで観察会にはモッテコイの場所です。神奈川県が箱根を控えた西の外れに博物館を作ったのは箱の中だけでなく、地域全体を博物館としてとらえる事が出来る場所だからだと思います。



案内板を見ながら説明する勝山学芸員

案内板は一夜城から博物館に至る約3.2キロの道のりで、コース全体を紹介する総合案内板（75cm×60cm）1基と周辺で観察できる動植物などを説明する個別案内板（50cm×60cm）9基でタイトルは次の通りです。

- | | |
|---------|-------------|
| ①タカの仲間 | ②スダジイの古木 |
| ③ハナミョウガ | ④ヒメボタル |
| ⑤アサギマダラ | ⑥石垣の大岩 |
| ⑦クヌギ林 | ⑧黒いアゲハチョウたち |
| ⑨早川の鳥たち | |

贈呈式が終わって、学芸員の勝山さんと加藤さんの解説で案内板を追いながら、博物館までの“自然を楽しむ みち”を、参加した皆さんと一緒に歩きました。

今回の案内板の設置を期に、地域全体を博物館として創造できる工夫を皆さんと考えていきたいと思いました。

「早川水系自然博物館の創造」、「早川水系の自然と歴史の探訪」など友の会・自然倶楽部活動に参加、協力していただき、地域と協調できる博物館づくりを目指しませんか！

（記：自然倶楽部担当・佐藤昭男）

☆☆ この夏 お勧めの本 二冊紹介 ☆☆

(いずれもミュージアム・ショップで販売)

『恐竜を掘りにいく』

■白亜紀の最強の肉食恐竜

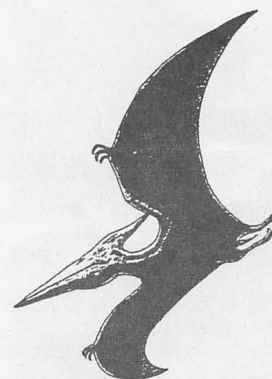
ティラノサウルス
(全長13～15m／竜盤類
／白亜紀後期)



友の会会長である濱田隆士先生
(福井県立恐竜博物館館長、生命
の星・地球博物館前館長)が本を
出版されました。謎だらけの生態
を解き明かす最新恐竜学です。

恐竜が語りかける、
はるかなる太古の記憶とは……
新たな発見への旅の誘い。

青春出版社 667円＋税



■恐竜の一種

プテラノドン
(全長7m／翼竜類
／ジュラ紀後期～白亜紀)

神奈川県立 生命の星・地球博物館 特別展図録2002

『人と大地と』

Wonderful Earth

「はじめに」から

今回の特別展は、当博物館の総合研究「博物館における新しい地学教育」の成果を公開するものです。この総合研究は、大地の素晴らしさを、より多くの人に、よりわかりやすく伝えるための方法を模索するものでした。「いつでも、どこでも、だれでも、いくらでも」をキャッチフレーズにして、これまでにない新しい視点を持つこと、新しい方法論をみつけること、新しい道具を使うこと、新しい体系をつくることを目標として取り組んできました。……

(学芸員 平田大二)

どこから読み始めても楽しい
図録です。

(CD-ROM付)800円



特別展は9月29日まで開催 チラシ同封

そこで博物館クイズ —特別展編—

ア～オまでの数字を考えてみましょう。

◆特別展のポスターやチラシ等を構成している図案は、佐藤武宏学芸員が、(ア)日がかかりでデジカメで(イ)個所以上、展示品や標本、博物館のまわりの風景等、色彩を考えながら撮影し、(ウ)時間かけて、寝ずに頑張って(エ)枚もの画像を取り込んで作成したものです。

ポスターは全部で約(オ)枚、チラシは全部で約(カ)枚の画像が用いられています。

ちなみに佐藤学芸員は「こんな大変な作業は二度としたくないな」と話しているそうです。

(答えは7ページに)

第5回植物観察会報告 神津島の旅

オオシマツツジを見に行こう！ 6.17~18

天上山の山頂は石を配置した日本庭園

島々の神が集うという神津島は、標高574mの流紋岩の山です。流紋岩がごろごろした山肌の中腹から山頂はオオシマツツジの群落。その美しさに感動し、来てよかったとつくづく思いました。心配したお天気ですが、曇り空で涼しく、まさに観察日和。天上山の山頂はカルデラ状で、円頂丘が連なり、池あり谷あり平地あり、表砂漠に裏砂漠、背丈が1mにも満たない低木ばかりで、まるで高山に登ったようです。庭園ともいえる山頂は、いくつかの観察コースがあり、素晴らしい展望の場所がありました。あの三宅島は、長く大きな噴煙をたなびかせており、いまだ島に帰れない人たちの心の内を想いました。



眼下に広がる景色がすばらしい……

後ろにも目のある先生がいました

登り始めて15分もすると、先頭グループがお目当てのオオシマツツジを発見。嬉しさと珍しさからかその場を動かなくなり、後ろの人はしばらくお預けです。

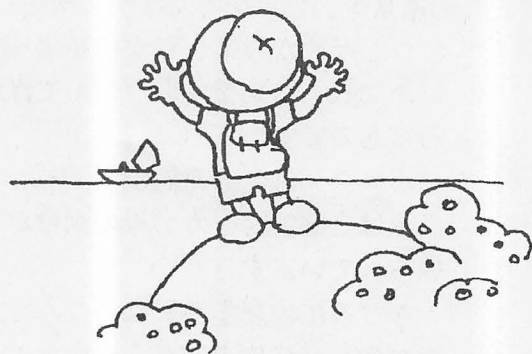
登山道は一列になって歩くので、後ろの人には先生の解説が聞こえない。たびたび後ろの方から「先生この青い実をつけた植物はなんですかー」等の質問があり、そのたびごとに「それ

はハチジョウキブシですよ」とか、「葉の裏の縁に褐色の点々があればタイミンチバナですよ」等々。

勝山先生は登山道から観察できる植物をみんなな把握し、後ろのグループや中間のグループが、今何を見ているかがわかるんです。後ろにも目があるすごい先生です。

今回の観察会を通して学んだ事がたくさんあります。植物は海岸に出ると形が小さくなるのが一般的ですが、反対に大きくなる植物を今回教えていただきました。また花粉のつき方や、花粉が出る葯の割れ方（丸、斜め、縦等）をルーペで覗きました。こうした経験をこれからの観察に生かしてゆきたいと思っています。

楽しい思い出はリュックに詰め込めないほどでした。（友の会 井上雅夫）



「この花な—あに」「この木は—」

朝早くから竹芝栈橋に集まった18人の植物仲間。3時間の船旅の後、下船したのは東京都神津島村。すぐ車に分乗して天上山登山口へ。ここでしっかりと雨対策、「いやー、この時期では降らなければ上天気だよ」とは、勝山先生の弁。大きな荷物を車に残し、急登の一本道を登り始める。足元の植物はどれも緑濃く、地に伏し、やっと腰くらいの高さ。「この花な—あに」「この木は—」と皆興奮ぎみ。島の植物は面白い。

『オオシマツツジを見に行こう!』と銘打ったのに、時期遅れではと担当者は心配な様子だったが、一步一步登るにつれ、ツツジの花が増えてくる。オオシマツツジだけではない、ハコネコメツツジも咲いている。砂漠地帯といわれるところでは白い砂地にツツジの赤がパッチワーク状に配置され、見事!時々晴れる霧の合間に、三宅島や御蔵島が見えてくる。

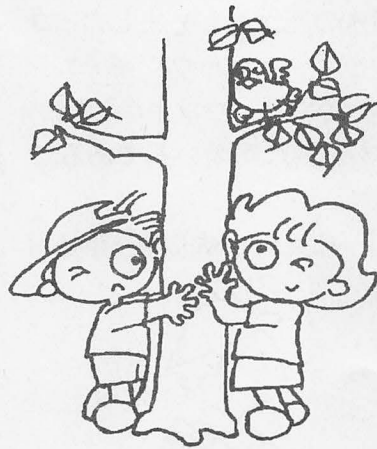
次に目指すはこの両者の雑種コウズシマヤマツツジ。『絶対あるはず』の言葉を信じて探

す。「あった。これだよー」の叫び声に皆集合、オオシマツツジ、ハコネコメツツジ、そしてコウズシマヤマツツジの比較をする。目当ての花が見つかり、皆ホッと。もうすぐ咲きそうなシマキンレイカやまだ硬い蕾のサクユリの中を下山。温泉で汗を流し宿へ。夕食後は先生方の神津島の地質や植物のミニレクチャー。

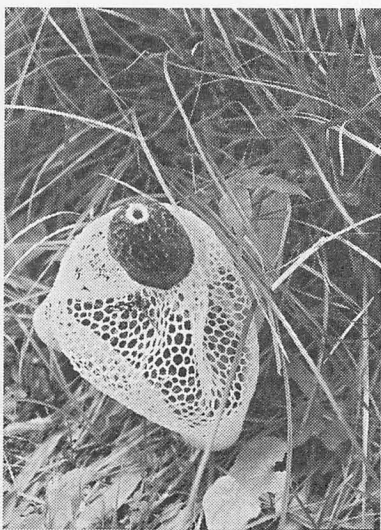
2日目は朝からどしゃ降り、一步も外に出られそうにない。しかし、昨日すばらしい景色と

たくさんの花を見た満足感からか、「雨でも歩こう」という声もなく部屋で団欒、天候不良のため繰上げて出航した高速船で東京へ帰る。

今度はサクユリが咲く頃に行きたいな。(A.S)



会員からのおたより



キヌガサタケ (スッポンタケ科)

竹林に、主に梅雨期に生え、高さ15cm位。2,3時間で伸び、半日後には萎縮して倒れる。悪臭を放ち虫を呼ぶ。中国では栽培され、食用、近年日本でも乾燥品が売られている。

— 出ました! キヌガサタケ —

「キヌガサタケを見たい。見たい」と言う友人がいて、「私は毎年みてる」と告げた時の、羨望の眼差しが忘れられず、「ならば見せてあげよう」と今年の時期到来を待っていました。「大磯では出始めてる」との情報を掴み、去る7月5日、雨続きの後、カッと晴れたのを狙って、かの友人を誘い、目当ての場所へ出かけてみました。

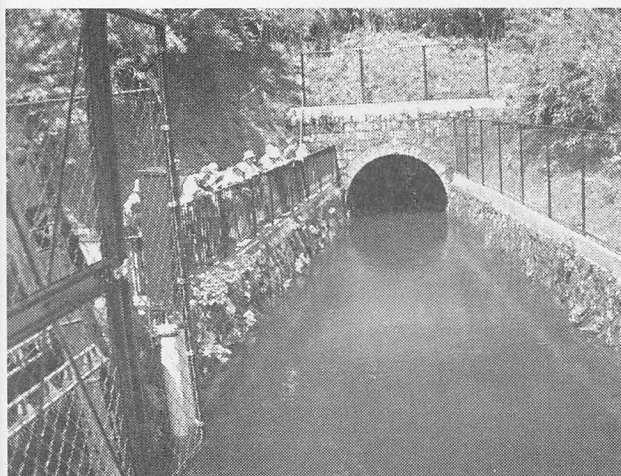
ありました!今朝出たばかりと思える新鮮なキノコが。「うわぁー、ちゃんと図鑑通りのスカートはいてる!」と、かの友人の第一声。喜ぶ姿を見て、私も大満足でした。実は毎年見ているとは言ったものの、いつも崩れた姿を見ているだけで、こんな綺麗なのを見たのは、私も初めてだったのです。皆さんにもお知らせしたくてお便りしました。(二ノ宮 A・Y)

< 自然倶楽部 > 早川水系の源を探る! Part 6

深良川観察会報告 5. 25

久々の五月晴れのさわやかな芦ノ湖畔は、まるで天国のような、優しい輝く空気に包まれていました。初めて参加させていただいた自然倶楽部の観察会では、学芸員の勝山さんと新井さんの博学だけでなく、参加者の皆さんの知識の豊富さに驚きました。今回は樹木の花が楽しめました。コゴメウツギ・マルバウツギ・ミツバウツギ・ニシキウツギ・ツクバネウツギなど、ウツギの仲間がこんなにあって、どれも可憐な可愛い花であることを初めて知りました。

桃源台から早川水門→深良川→湖尻峠→箱根用水と足を進めていく間に、佐藤さんから芦ノ湖の水の使用権の争いの話などを聞いたり、道路沿いの崖に牧草とヨモギの播種による流れ止めが日本の自然の植生



深良用水の静岡側出口を覗く参加者

を脅かしている現状などを勝山先生に教えていただいたり、大変勉強になりました。

岩波駅に着くと雄大な富士山の姿を拝むことができました。久々の陽射しに一汗かいた後の御殿場高原ビールの味は格別でした。素敵な一日をありがとうございました。(友の会 市石知子)

地球博物館入館者

250 万人達成!

当博物館が7/19(金)入館者250万人を達成しました。記念すべき250万人めの入館者となったのは座間市座間1丁目の大塚正さん(69才)。

お友達4人と訪れた時の思わぬ出来事。恐竜の模型や箱根温泉の宿泊券のプレゼントにびっくりの様子で、「今度は博物館好きの孫と来ます」と喜んでいました。

当博物館は1995年3月にオープンし、1997年7月に100万人、2000年8月に200万人に達しています。(7/20 朝日新聞掲載抜粋)

博物館クイズの答え

ア 2日	イ 100箇所以上
ウ 36時間	エ 411枚
オ 3,200枚	カ 2,400枚



友の会 行事報告

<友の会役員会議報告>

第33回 7月13日 友の会8名 博物館3名

- ・各企画の報告と今後の予定
- ・今後のサロン・ド・小田原について

これまでのサロン・ド・小田原は、原則として奇数月の(土)に開催してきたが、博物館の担当者との話し合いで「今年度は、茶話会も含めて、いろいろな形でやってみたい」とのこと。9月は5日の木曜日。内容等は別記。

<オープンラボ>

<ミクロの生物ウォッチング> (館共催)

6/1、いろいろな種類のプランクトンが見られておもしろかった。ケイソウの仲間は変わった形のものがあって驚いた。(小6 谷敦史)

数多くのサンプルが用意され、様々な種類の微生物を見ることができ、大変満足できました。初めて見る種類もあり、感動しました。特にヒドラやクマムシはなかなか見られないものと思っていましたが、身近に感じるようになりました。どうもありがとうございました。(父 谷圭司)

<変形菌を探そう>

7/7の変形菌かんさつは、すごくおもしろかったです。山に入ったときには、あんまり変形菌がなかったけど、おくに入ったらだんだん変形菌がいっぱい、出てきました。竹やぶで見つけたのは、ホネホコリとホソエノヌカホコリです。おくに入って見つけたのは、クモノスホコリとだいたい色のキノコです。ほかにもキノコを見つけました。みんなは、いろんな菌を見つけていたので、すごいなおもいました。

(小2 小島漱一郎)



心配された天気も小雨程度で、なんと20種近くもの変形菌を見つけました。皆、熱心に顕微鏡で観察したり、磁性スライムを作ったりして、たくさんの発見がありました。幼児から熟年者まで30名が参加。(矢野倫子)

<サロン・ド・小田原>

7/13にサロン・ド・小田原とその後の茶話会(酒話会?)に初めて参加しました。

テーマは高桑学芸員による「スライドで見るタイの昆虫調査苦労話」でした。珍しい昆虫がたくさん見られるかと思いきや、昆虫よりも唯一の楽しみだった(?)食事風景や果物のスライドが多く紹介されました。また、宿泊したゲストハウスの造りや寝泊まりの様子などを通して現地でのご苦労を知ることが出来ました。

茶話会では昆虫講座期待の中学2年生、小林君と鈴木君が自己紹介を行い、拍手喝采を浴びました。会費だけ払ってあまり来る機会がないという方、興味のある分野の時だけでも参加してみませんか?学芸員や友の会の仲間と話をするいい機会です。(友の会 松本洋一)

<地学観察会>

西丹沢 Part 4 ～地蔵平火山巡検～

丹沢にも火山があった、と聞いて「えーっ」と思いませんか。中川温泉から西に尾根一つ越えた大又沢の地蔵平や法行沢の辺りにあったということです。240万年前の火山体や噴出物はすでに侵食で失われていますが、火道を埋めた火道角礫岩やその後の活動による進入岩類が見られました。石英斑岩中の石英の自形結晶も採集しました。当初、大又沢入りは最短の二本杉峠越えでした。実行委員は前に通っていますが、念のため直前の偵察をしたところ、大又沢の出口に「千鳥橋～二本杉峠間登山道極めて危険、初心者は不向き!」という看板が出ていました。当日朝、お詫びして訂正しましたが、今までにない長い歩きになってしまいました。幸いお天気がよく、排気ガスで煤けた緑に慣れた目には、初夏の溪谷の緑は新鮮でした。(参加者28名、新藤)

計報のお知らせ

友の会事務局の運営に貢献していただいた井上高弘さんが、7月22日ご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

友の会 行事予定

あなたも参加してみませんか？

行事への参加申込み方法

はがき（あるいは往復はがき）に企画名、会員番号、参加者全員の氏名、性別、年齢、住所、電話番号を明記の上、〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会事務局へ

TEL : 0465-21-1515 FAX : 0465-23-8846

Eメール : tomonokai@nh.kanagawa-museum.jp(新設)

<各部の会議のお知らせ>

役員 会議 : 9月8日(日)13:00～

自然倶楽部 : 10月5日(土)発送作業後

オープンラボ : 9月14日(土)10:00～ 企画会議

10月12日(土)10:00～ 企画会議

<サロン・ド・小田原>

今回は開催中の特別展「人と大地と」に関連して、地球環境グループの山下学芸員に岩石や鉱物の魅力を語っていただきます。前回とは異なり、木曜日の夕方6時からです。茶話会も本格的？です。

日時 : 9月5日(木)18:00～19:00 講演

演題 : 大地の魅力(仮題)

演者 : 山下浩之学芸員

場所 : 博物館1階講義室

茶話会 : 19:00～20:00 (参加費1,000円)

申込み : 9/3までに、ハガキ・FAX・Eメールで

茶話会への出欠も必ず明記の上、事務局へ
(講演会のための参加者は連絡不要です)

<第6回植物観察会>

“秋の始まりを富士山に楽しむ”

日時 : 8月28日(水)10:15～ 雨天中止

集合 : 富士山五合目駐車場バス停(河口湖口)

申込み : 8/19までに、普通はがきで事務局へ

問合せ : 佐々木へ ☎0465-21-1515 別紙参照

<第7回植物観察会>

“秋草をめでながら歩く矢倉岳”

日時 : 10月1日(火)9:15～ 雨天中止

集合 : 大雄山線大雄山駅(9:25発バスに乗車)

大雄山線小田原発、8:24、36、48(所要21分)

コース : 地藏堂バス停→矢倉岳→矢倉沢バス停

持ち物 : 弁当・水筒他、ハイキングの服装で

申込み : 9/23までに、普通はがきで事務局へ

(初参加の方はその旨ご記入ください)

問合せ : 小久保へ ☎0465-21-1515(本館)

<オープンラボ>

土の中の虫ウォッチング

博物館周辺で、落ち葉の下の生き物を調べます。

日時 : 9/28(土)、29日(日)10:00～15:30

場所 : 実習実験室(両日とも)

講師 : 館長 青木淳一先生 詳しくは別紙で

<オープンラボ、夏休みのご案内>

夏休みの楽しい企画がまだいっぱいあります。
当日参加もあります。詳しくは別紙で。



<地学観察会 大磯丘陵Part1>

湘南平から地形を見よう

大磯丘陵の地形と化石を観察し丘陵の成立ちを考えます。晴れるといいな。

日時 : 9月7日(土) 雨天中止

集合 : 東海道線大磯駅前、9:30～16:30頃

講師 : 田口公則、山下浩之(学芸員)

コース : 湘南平～高麗山～路線バス～西小磯海岸

会費 : 100円(保険代、資料代)

申込み : 9/2までに往復はがきで事務局へ。

問合せ : 新藤へ ☎0465-21-1515

—編集委員の近況—

奥野花代子/ノウゼンカズラのオレンジ色の花が、

夏空にあざやか!!暑さに気をつけましょう。

木村佐知子/夏休みの博物館はにぎやかです。

武井佐八/今年も、孫とセミガラ採りに精が出ます。

八木 逸/今年は夏休み無し。来年も無し。

横溝吉香/娘が結婚。22年続いた弁当作りが幕。

◆次回の友の会通信は、10月5日発送予定です。